

2018 年 12 月 25 日

(公財)日本水泳連盟  
水球委員会

## FINA 水球ルール改定内容

2018 年 12 月 10 日に開催された FINA 水球特別技術総会において下記ルール改定が賛成 161、反対 6、棄権 2 にて承認されました。

FINA 水球委員会が準備した比較資料(現行ルールで行われた 2018 年欧州選手権と新ルールをテストした 4 つの FINA 大会の統計データを比較したもの)に示されている通り、攻撃回数、シュート回数、速攻からのシュート回数が増加する一方で、攻撃側の反則、及び笛が鳴って試合が止まる回数が減るといふことから試合をスピードアップする効果及び乱暴なプレーが減少するといふ点が明確に認識された事が新ルールが採択された背景です。

FINA では 2019 年 3 月 26-31 日に開催されるワールドリーグ・インターコンチネンタルカップ(豪州・パース)及び 2019 年 4 月 5-7 日に開催されるワールドリーグ・欧州最終ラウンドから新ルールが適用されます。

ルールブック条文作成は FINA 水球委員会にてこれから行われます。

当委員会では本ルール改定に基づき、今後日本水泳連盟関係諸機関における承認取得、新ルール説明・研修会の実施、及び特にフィールドマーカーの変更(5m→6m)に関するガイドライン設定を順次行います。

尚、下表の(11)-(14)はそれを実行する為の機器が必要である事、FINA でもルールへの記載ではなく、ガイドラインへの記載になると思われる事から今後段階的適用になると思われます。但し(11)のレフェリー・デレゲート間のハンディカム使用は日本でも全国大会レベルから順次使用する事を検討します。

項目	変更点
(1) 攻撃時間	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ (1)コーナースロー、(2)シュートのリバウンド後でボール保持の変更を伴わない場合、(3)退水発生時には攻撃時間を 20 秒にリセットする(これ迄は 30 秒)。</li><li>▪ 但し;<ul style="list-style-type: none"><li>a. 攻撃時間が 20 秒超ある場合の退水時には、当該攻撃時間が維持される。</li><li>b. 両者退水の場合は攻撃時間はリセットされない。</li></ul></li></ul>
(2) フリースローの位置	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ フリースローはボールがある位置から行われる(これ迄は反則が発生した位置或いはそれより相手側ゴールに遠い位置)。</li><li>▪ 但し、反則が相手側 2m 線内で発生した場合は 2m 線上以上で遠から行われる。</li></ul>
(3) コーナースロー	コーナースローを行う場合、(1)直接シュート、(2)ボールをインプレーにしてからドリブルしてのシュート、(3)他のプレーヤーへのパスのいずれも可能(これ迄は(3)のみ可能)。
(4) 選手交代方法	<ul style="list-style-type: none"><li>▪ プレー中の選手交代をいつでも自陣サイドライン外にて行える。これから出場する選手とフィールド外に出る選手が共にサイドライン</li></ul>

	<p>外で視認出来る様にハイタッチする事により交代出来る – 所謂 Flying Substitution (これ迄は両選手が自陣再入水エリアで視認出来る様に入ってからのみ交代が可能だった)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ これ迄通り、再入水エリアでの交代も可能。</li> <li>▪ Flying Substitution で交代する人数の制限は無い。</li> <li>▪ 交代者は再入水エリアの横から交代位置迄泳いで行く事。Field 外に出た選手は泳いで再入水エリアの横迄戻る事。</li> <li>▪ このルールへの違反はレフェリー或いはテーブルオフィシャルが判定する事が可能であり、WP21.16(不正入水)として処理される。</li> <li>▪ 但し、退水者の交代はこれ迄通り再入水エリアで行われる。</li> </ul>
(5) タイムアウト	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ タイムアウト請求はベンチ役員の責任にて行われる。即ちタイムアウトレフェリーは置かない。(これ迄はタイムアウト請求権はチームの責任としながらも、大会毎にタイムアウトレフェリーを置いたり置かなかったりしていた)。</li> <li>▪ タイムアウトは 1 試合に 2 回迄請求可能で、同一ピリオドに 2 回連続して請求しても良い(これ迄は各ピリオドに 1 回)。</li> <li>▪ ペナルティスロー判定時のタイムアウト請求は認められない。</li> </ul>
(6) ハーフタイム	3 分(これ迄は 5 分)。
(7) フリースローシュート	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 反則が発生した位置及びボールの位置が共に 6m 線外の場合、(1)フリースローからの直接シュート、(2)ボールを視認出来る様にインプレーにした後(ボールを手から離す必要あり)のフェイク、或いはドリブル後のシュートが可能(これ迄は 5m 線外での反則後、フリースローから直ちにシュートする事が可能)。</li> <li>▪ ボールをインプレーにした後は当然防御側競技者がタックル可能。</li> <li>▪ 6m 線ぎりぎりの位置でフリースローシュートを行う事が明確でないがレフェリーが可能と判断した場合は、片手を上げてシュート可能を示す(これ迄は斯かる規定無し)。</li> </ul>
(8) ゴールキーパーのプレー可能エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ゴールキーパーはハーフラインを越えてプレーする事が可能(これ迄は自陣だけでプレー可能だった)。</li> <li>▪ ゴールキーパーはペナルティスローを打つ事も、ペナルティシュートアウト時のシューターになる事も可能。</li> </ul>
(9) ペナルティファウル特則	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 6m 線内で攻撃側競技者がドリブル、或いはボールを持ってゴールに正対してシュートを試みている時に防御側競技者が後ろからこれを妨害した場合はペナルティファウルが判定される(これ迄水球の対人ファウルは相手がボールを保持していない場合のみに判定されていた)。</li> <li>▪ 但し、妨害行為が攻撃側競技者が持っているボール或いは手に対して為された場合は反則とならない。一方、腕、背中、肩への妨害はペナルティファウル対象となる。</li> <li>▪ ペナルティファウル判定の基準はこれ迄と同様であり、新たに加わった要素は攻撃側競技者がボールを保持していても防御側競技者がその背後から妨害した場合は「恐らく得点となるプレーを妨害した」と見なすという点。</li> <li>▪ レフェリーは攻撃側競技者がシュート可能かどうかを見極めてからこの判定を行う必要がある。</li> </ul>
(10) ペナルティスローの位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ これ迄通り 5m から行われる。</li> <li>▪ フィールドロープは 2m-6m 間が黄色表示となる為、5m 地点にコーン或いは類似した臨時の表示を設置する。</li> </ul>

(11)オーディオ機器によるレフェリー・デレゲート間の連絡	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 2人のレフェリーがヘッドセットを用いて試合中にコミュニケーションを取る(これ迄は斯かる規約無し)。</li> <li>▪ デレゲートもヘッドセットを着用するが、試合中のレフェリー判定には介入せず、機器トラブル等の場合にのみ介入する。</li> </ul>
(12)退水者の再入水シグナル	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 退水時間残り5秒と再入水可能時間をビジュアルに示す機械を使用する(これ迄はテーブルオフィシャルが旗を上げて再入水可能を示していた)。</li> <li>▪ 但し、これを行える機器がある場合のみ適用される。</li> </ul>
(13)ビデオによるゴールインか否かの判定	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ワールドカップで試行された。</li> <li>▪ ゴールインか否かの判定はレフェリー及びFINA水球委員会によって行われる。(これ迄は斯かる規約無し)。</li> </ul>
(14)Game Video Monitoring System(GVMS)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 試合中にレフェリーが判定出来なかったブルタリティ或いは過度に乱暴なプレーを試合後に罰する為にGVMSを用いる(これ迄は斯かる規定無し)。</li> <li>▪ GVMSを使用した場合、試合の結果が遡及的に変わる事はないが、ブルタリティが遡及して適用された場合には対象選手は最低次の1試合は出場停止となり、当該チームはその分だけ少ない選手数でプレーしなければならない。</li> <li>▪ GVMSを希望するチームは通常抗議の場合と同様に試合後60分以内にそれを記載した書面と500スイスフラン(或いは同等の金額)を保証金としてFINAデレゲート或いは当該大会のFINAオフィスに提出する。</li> <li>▪ FINA水球委員会がGVMSを要求する事も可能。</li> <li>▪ 対象となるビデオは大会オフィシャルビデオのみ。</li> </ul>

以上